

RHYTHM

電波時計 取扱説明書 (報時付掛時計)

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信して正しい時刻に自動修正します
- 毎正時と30分にメロディやチャイム、鐘の音で時刻をお知らせします

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年を基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似代替品の使用や現品交換で対応させていただくことがあります。

●修理可能期間について

無償保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有償での修理が可能です。ただし、修理内容や送料などにより修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

This product is intended for the Japanese market.

Service and technical support for this product are available only within Japan.

製造
発売元

リズム時計工業株式会社

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

(Y1403)

おもな製品仕様

使用温度範囲 -10～50℃ *結露しないこと

時間精度 標準電波受信成功直後の表示精度 秒針 ±1秒 時分針 目盛りに対して±3度
標準電波を受信しない場合 平均月差±20秒（温度が5～35℃のときのクォーツ精度）

使用電池 単2形アルカリ乾電池 JIS規格 LR14 1.5V 2個

電池寿命 約1年 *標準電波の受信に成功し、報時を音量中位で17回/日使用したとき。

報時機能 毎正時、30分に報時

報時精度 表示時刻に対して±1秒

報時音 電子音 チャイム+数取り、メロディ+数取り、数取り いずれかを選択 メロディは6曲収録
入/切/自動消音 スライドスイッチ *自動消音：明暗センサーと連動して暗所停止

音量調節 ロータリー式ボリューム

報時音モニター あり

暗所秒針停止 明暗センサーと連動して秒針が12時位置に停止

電池交換時期 秒針が常時12時位置に停止
お知らせ機能

電波受信機能 標準電波受信による時刻修正

受信局 福島局/九州局 自動選択

受信ON/OFF ボタン操作

受信回数 最少 1日1回 最多 1日12回

標準電波受信開始時刻 条件 回数 開始時刻

▶受信成功から72時間以内の場合 …………… 1～3回/日 AM 2:16:40、AM 3:16:40、AM 4:16:40
▶連続72時間以上受信に失敗している場合 } 12回/日 奇数時の16分40秒
▶初めから受信に失敗している場合 } 例 AM 1:16:40、AM 3:16:40など
▶手動で時刻合わせをした場合

●製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

付属品

電池 2個、木ねじ 1個、取付金具 1個、くぎ 4個、取扱説明書 本書、保証書 1枚

お問い合わせ先

お客様相談室 0120-557-005

(フリーダイヤル)

受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

お問い合わせに際しては、製品番号(型番)「4MN469」をお伝えください。

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。
本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなら責任を負いかねますのでご了承ください。

安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

必ず守ってください。

図記号の説明 ○は、禁止（してはいけないこと）を示しています。

●は、指示する行為を必ず守ることを示しています。

警告 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

●誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない

●万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

●電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る

- 電池に傷をつけない。
- 電池を分解しない。
- 電池をショートさせない。
- 電池を充電しない。
- 電池を加熱しない。
- 電池を火の中に入れない。

●電池から液漏れが起きてしまったときは、素手でさわらない

●目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。

●電池を外して、漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

注意 傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容

●電池の⊕⊖を正しく入れる
液漏れや発熱の原因となり、故障やけがの原因になります。

●強い振動や衝撃を与えない
故障や破損の原因になります。

●浴室やサウナ、温室など、高温・高温になる所では使わない
さびの発生や故障の原因になります。

●ぬれた手で触らない
故障や誤作動の原因になります。

●分解や改造をしない
けがや故障の原因になります。

●下記のような場所では使わない
精度の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 暖房機器などの風が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気を発生させる機器のそば。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- プール、温泉場などガスの発生する所。
- 調理場など多くの油を使用する所。
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質することがあります。

電池のご注意 (電池の正しい使いかた)

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス(+)、マイナス(-)を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手の届かない所に置く。

電池の寿命について

●付属の電池は、工場出荷するときに入れてありますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。

電池の種類について

- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。

電池、製品の廃棄

- お住まいの地区自治体の指定に従ってください。
- 電池と時計を分別して廃棄してください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどの汚れ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

電波時計について

電波時計とは

クォーツ時計に標準電波を受信する機能を搭載し、標準電波を受信することにより、自動的に正確な時刻に修正する時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所にあります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。
(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外でのご使用になるときは、電波受信機能をOFFにして手動で時刻を合わせてください。電波受信機能をONのまま使用すると、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。

電池の交換時期お知らせ機能…………… 常時秒針が停止する

電池の交換時期になると、明るい所でも秒針が12時位置に停止したままになります。そのまま放置すると電池からの液漏れや誤作動の原因になりますので、このような状態になったときは、速やかに新品の電池にすべて交換してください。

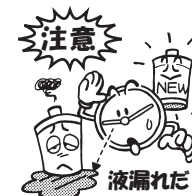
※電池の交換時期になると報時が停止します。

※時分針は、秒針が止まってからおおよそ1ヵ月程度は動き続けます。

注意 電池の交換 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

電池からの液漏れにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことをお守りください。

- 時計が停止したときは、速やかに新品の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 時計が動いていても1年に1回定期的に交換する。
- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。

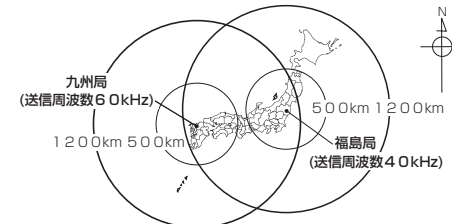


静電気の影響について

静電気により、誤作動をすることがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押してください。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。



この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

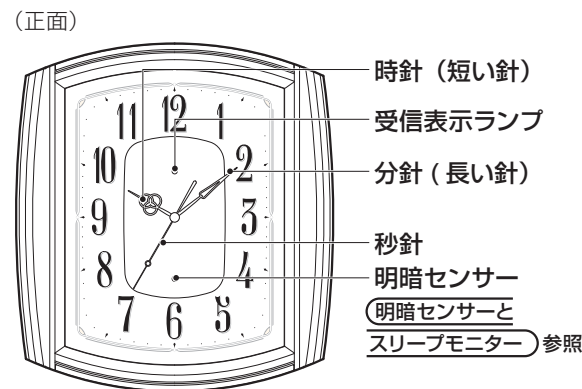
次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの中、ビルの谷間、地下
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



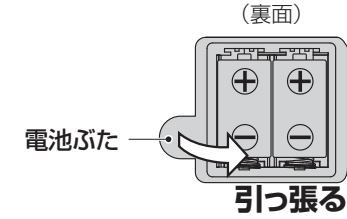
各部の名称と役割

○図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。



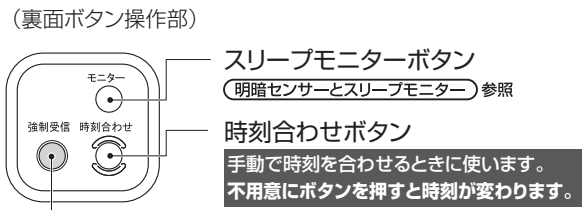
電池の入れかた

時計裏面の電池ぶたを引っ張って取り出し、単2形アルカリ乾電池を電池ホルダーに入れ、電池ぶたを押し込んで取り付けてください。



針の動き

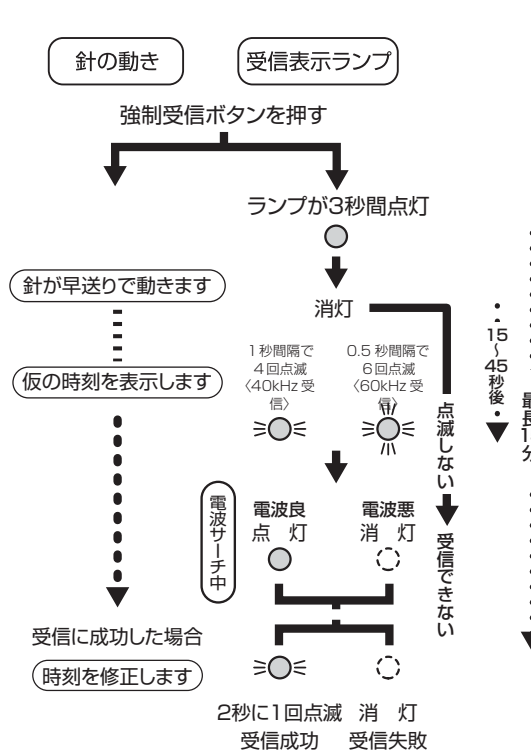
時計分針:10秒に1回動きます。
秒針:滑らかな1秒ステップで動きます。
※自動受信で時刻を修正するときは、早送りで順方向または逆回りしたり、停止することがあります。



強制受信ボタン

電池を入れたとき、設置場所を変えたとき、誤受信したときに使います。

標準電波—受信の流れとサーチ機能の使いかた



電波サーチ機能は、受信表示ランプの点灯または消灯により、時計がある場所の電波状態をお知らせします。

サーチ機能を使用するときの手順

- 窓際やベランダなど電波の受信しやすいところに時計を移動させます。
- 強制受信ボタンを押します。受信表示ランプが約3秒間点灯後に受信を開始。針は早送り移動し、仮の時刻を表示します。
- 受信局を表示後、受信表示ランプが点灯したら、設置したい場所に時計を移動します。
- 電波状態を確認します。
点灯:電波良好→受信できる可能性大
消灯:受信できない
→時計を移動させてください。

○点灯と消灯が繰り返されるときは電波が弱いです。受信に失敗する可能性があります。

○電波サーチ中に、時計の向きや位置を変えると受信表示ランプの状態が変化します。

- 受信結果を表示します。
受信成功:2秒に1回点滅
受信失敗:消灯

○受信に成功してもノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このようなときは、場所を変えて強制受信ボタンを押してください。

○受信に失敗している場合は、表示されている時刻は正しくありません。

○受信表示ランプは、受信に成功すると最長で24時間表示を続けます。

標準電波を受信できない場合

●朝までそのまましておく

一般的に夜間は電波状態が良くなるので、手で時刻合わせをして一晩そのままにしておくことと受信できる可能性が高くなります。1～2日後に受信結果を確認してください。

●場所を変える／受信をやり直す

電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考に、時計の正面または裏面が電波の送信所に向くようにして、強制受信ボタンを押して再度受信を行ってください。

●時刻を合わせて使用する

ベランダなど屋外で電波の受信に成功させるか、手で時刻を合わせて使用してください。電波が受信できないときの時間精度はクォーツ精度になります。

手動での時刻合わせ…電波を受信できないときや任意の時刻に合わせる時

時刻合わせボタンを操作することにより、手で時刻を合わせることができます。

※時刻合わせボタンを離しているのに、針が早送り動いている場合は、通常の針の動きになってから操作をしてください。

※電波受信機能がONのときは、受信に成功すると時刻を修正します。

- 操作
- 時刻合わせボタンを押してすぐに離すと1分進みます。
 - 時刻合わせボタンを押し続けると早送ります。このとき秒針は停止します。

秒針の動きについて

時刻合わせボタンを離したとき、ゼロ秒に設定されます。秒針が早送り動いているときに、時刻合わせボタンを離すと、そのまま早送り現在時刻の秒位置まで動きます。

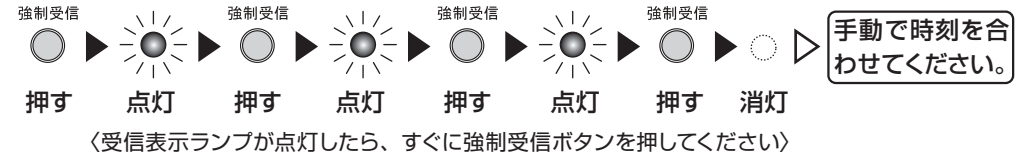
電波受信機能のON/OFF切り替え操作

誤受信しやすい所で使用する場合や意図的に時間をずらしてお使いになるときには、電波を受信しないようにすることができます。この場合、時間精度はクォーツ精度になります。

■電波受信機能をOFFにするには（電波を受信しない）

図のように強制受信ボタンを4回押します。ボタンを押すタイミングによっては、OFFに切り替わらないことがあります。このようなときは、操作を繰り返してください。

※電波受信機能がOFFのときに強制受信ボタンを押すと、受信表示ランプは消灯したままで、針が早送り動いたり、止まったりしてから時刻を表示します。



■電波受信機能をONにするには（電波を定期的に受信する）

工場出荷時の設定は、電波受信機能はONになっています。

時刻合わせボタンを押したまま、強制受信ボタンを押してすぐに離し、時刻合わせボタンを離します。その後、必ず強制受信ボタンを押して受信を開始させてください。



ご注意

※この説明文の中で「押す」は、「押して、すぐに離す」ことです。

※電波受信機能は、電池を取り出してもすぐには出荷状態には戻りません。電波受信機能をOFFからONにするには、必ず上記の操作をしてください。回路に電荷がなくなると、受信機能はONになります。

使用方法 電池を入れて時刻を合わせる

標準電波を利用しないで、手で時刻を合わせる場合は、**手動での時刻合わせ**を参照してください。

○窓際など電波の受信しやすい所でお使いください。

- 側面にある報時スイッチを「切」にして音量を最小にする
操作中に報時が大きな音で鳴り出さないようにします。
- 電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を2個入れる
△注意 電池を逆向きに入れると、電池の液漏れ・発熱・破裂の原因となります。
- 強制受信ボタンを押す（標準電波・受信の流れとサーチ機能の使いかた）参照
受信表示ランプが点灯して受信を開始します。
針が早送り移動を開始し、およそ3分以内に仮の時刻を表示します。
※電池を入れた後は必ず強制受信ボタンを押してください。
- 時計の掛けかたに従い、時計を確実に掛ける
- 受信開始から15分経過してから受信表示ランプで結果を確認する
受信成功:2秒に1回点滅
受信失敗:消灯 → 標準電波を受信できない場合へ

■報時機能を（報時の使いかた）に従って設定してお使いください。

時計の掛けかた

△注意 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。

○掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け部に掛け具（木ねじ）がしっかりと掛かっていることを確認してください。

○垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。

○市販の掛け具を使用するときは、壁掛け部にしっかりと掛かるものを選んでください。

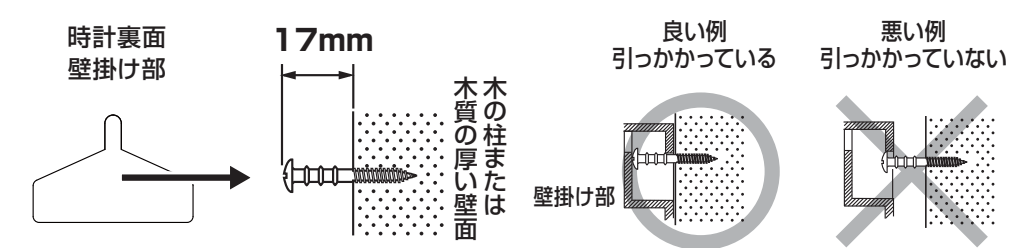
○ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に設置してください。

○掛け部以外に掛けないでください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合

●付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。

●木ねじは下図のとおり、壁面にしっかりとねじ込んで固定してください。



石こうボードの壁面の場合

●付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。

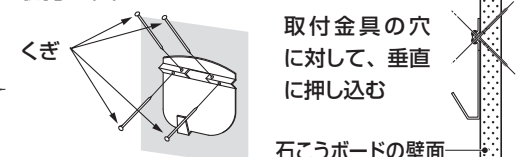
●取付金具は下図のとおり、付属のくぎ4本でしっかりと固定してください。

取り付けかた 取付金具 タイプA

金具を水平にして①②の順序でくぎを押し込む。



取付金具 タイプB



○壁の材質、取り付け方法を確認の上で使用ください。

○付属する取付金具のタイプに応じた取り付けをしてください。

○取付金具は水平に取り付けてください。傾けて取り付けると時計が傾きます。

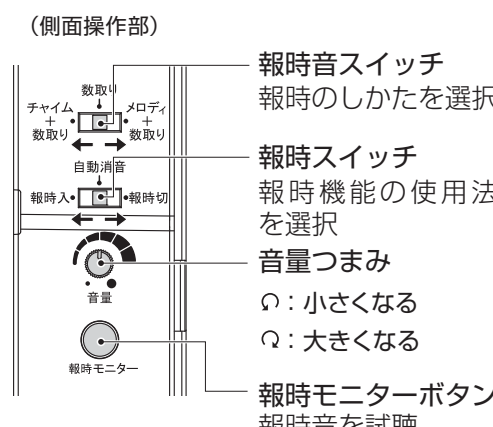
○くぎは取付金具の穴に対して、垂直に押し込んでください。

○取付金具には、3.5kg以上のものは掛けないでください。

その他の壁面の場合

●コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。

報時の使いかた……………お好みに合わせて報時機能を設定してください



報時スイッチの設定

- 報時入:** 常に報時する。
自動消音: 明暗センサーと連動して、明るい所で報時し、暗くなると報時を停止する。
報時切: 報時をしない。

報時音スイッチの設定

報時のしかたを選んでください。

（チャイム+数取り）

毎正時 ウェストミンスターを奏で、その後時刻に対応した数で鐘が鳴り、時刻をお知らせします。
30分 鐘が1回鳴ります。

（メロディ+数取り）

毎正時 1曲メロディを奏で、その後時刻に対応した数で鐘が鳴り、時刻をお知らせします。
30分 鐘が1回鳴ります。

（数取り）

毎正時 時刻に対応した数の鐘が鳴ります。
30分 鐘が1回鳴ります。

音量調節のしかた

報時モニターボタンを押し、報時している間に音量つまみを回して調節します。

報時音の试听のしかた

報時モニターボタンを押すと報時音スイッチに対応した報時音を奏でます。報時は時計が指している時刻に対応します。
例. 3時35分のときは3時の報時音が鳴ります。報時音スイッチが「メロディ+数取り」のときは、鳴っているときに報時モニターボタンを押すと、次のメロディに切り替わります。

メロディについて

- 報時音は電子音によるものです。
- 曲目は時計裏面に表示してあります。
- 曲順は変更することはできません。
- 時刻ごとに曲目は固定されていません。

明暗センサーとスリープモニター……暗くなると秒針と報時が停止

明暗センサーが暗いと判別した場合

- 秒針が12時位置で停止します。
- 受信表示ランプが消灯します。
- 報時スイッチが「自動消音」のときは報時を停止します。

センサーは、時計の周囲の明るさに反応しますので、昼間や夜間の照明時などでも明るさが不足すると反応することがあります。

スリープモニターは明暗センサーの機能を確認するためのもので、秒針が55～59秒の位置になったときに、スリープモニターボタンを押し続けると12時位置になったときに秒針が停止します。ボタンを離すと秒針が現在時刻位置に早送り移動します。

※十分に明るい所で秒針が止まるときは、電池の交換時期です。

裏面 **電池の交換時期お知らせ機能** 参照。